大豆の品種育成について

農研機構　中日本農業研究センター　上越研究拠点
作物開発グループ　河野雄飛

大豆育成地から各県へ

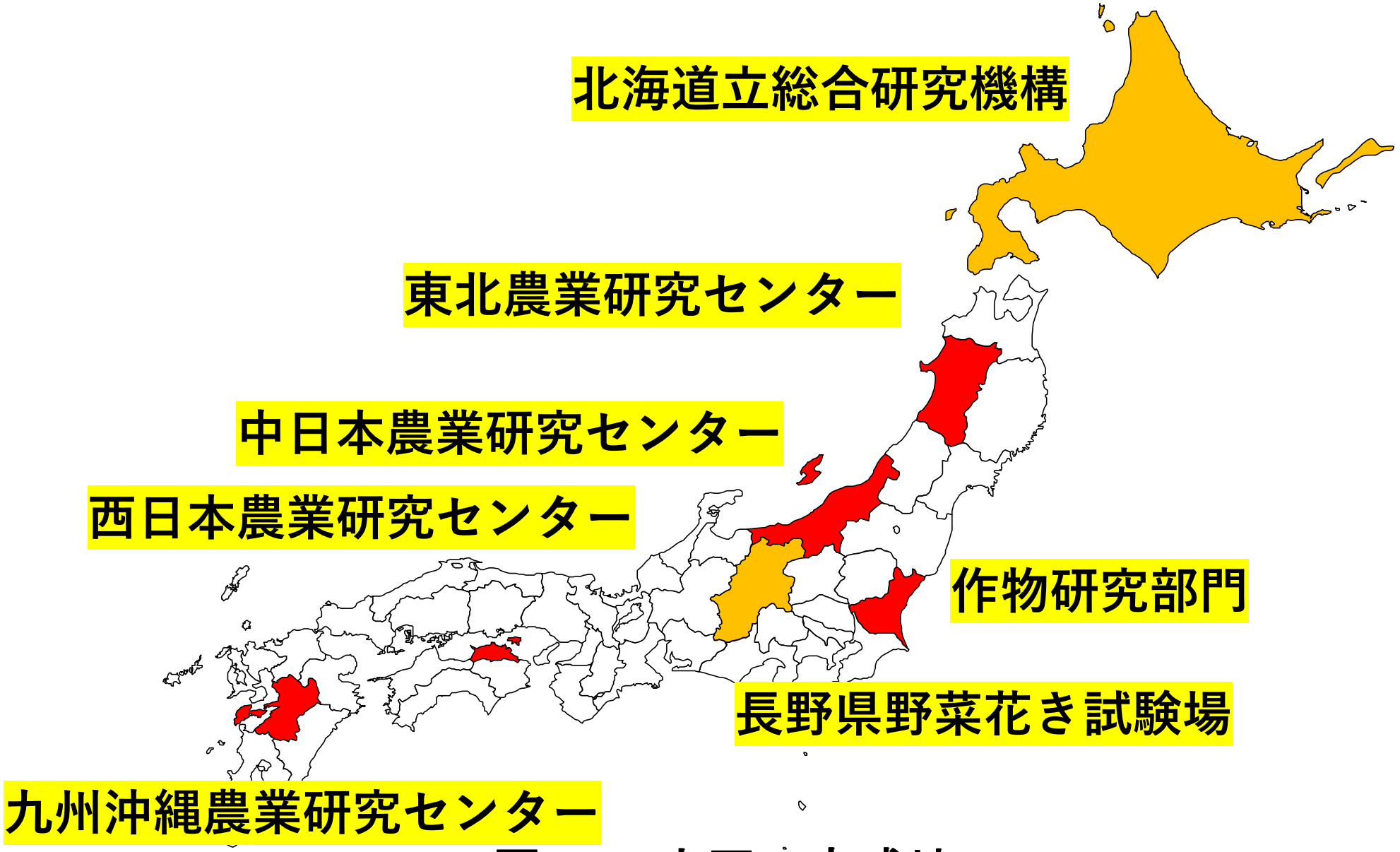
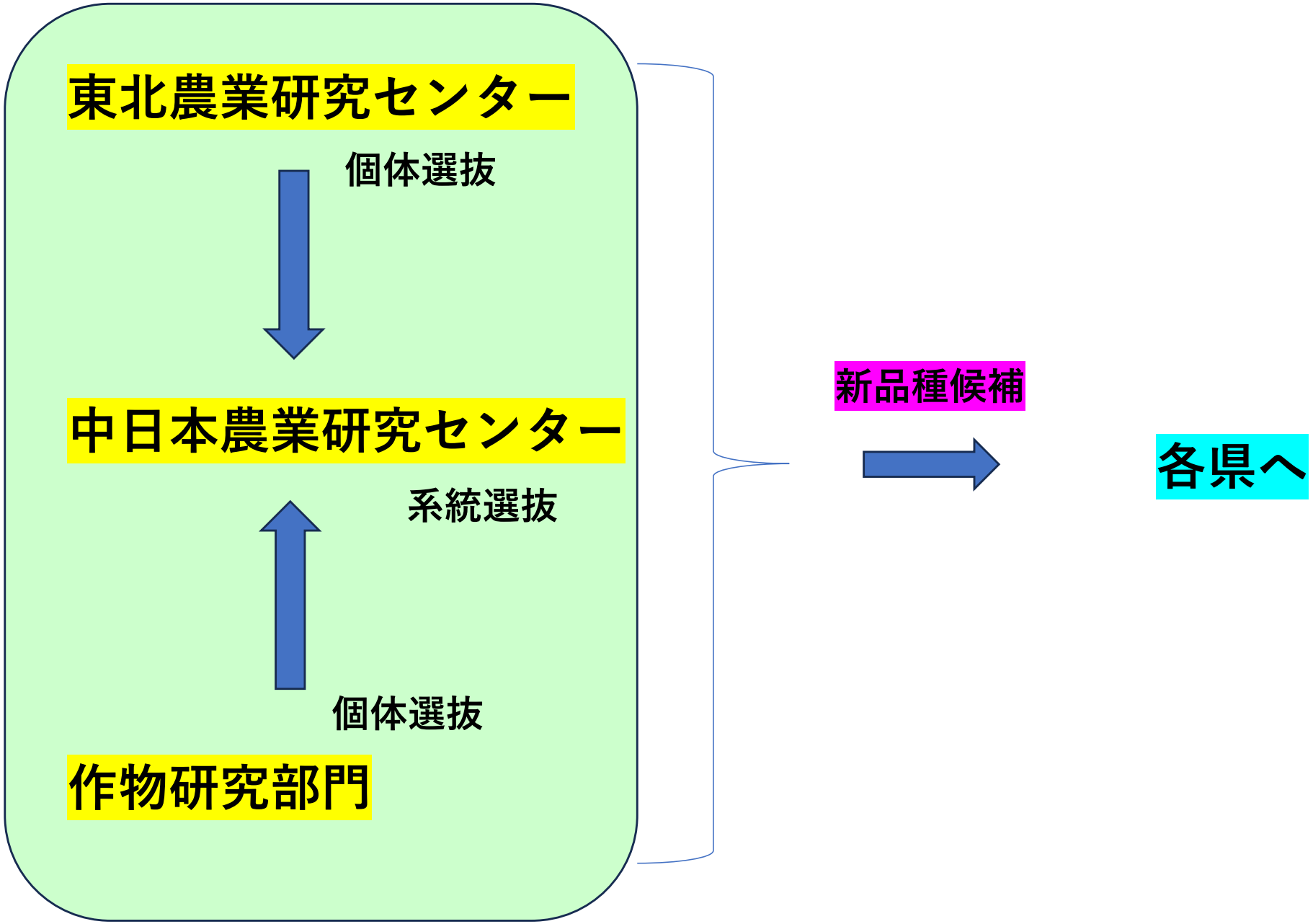


図１．大豆の育成地

中日本農業研究センターでの選抜



選抜について

農研機構 NARO

成熟期

収量性

外観品質

ﾀﾝﾊﾟｸ質含量

裂莢性検定試験

耐倒伏性検定試験

薬害抵抗性試験

病害抵抗性試験

難裂莢性系統を選抜

圃場で莢が
開きにくい

「里のほほえみ」

難裂莢性

「エンレイ」

易裂莢性

図２.裂莢性の違い

子実成分を測定して選抜

農研機構 NARO

蛋白質、水分、脂肪、全糖を非破壊で測定

図３.近赤外分光分析機FOSS infratec1241

北陸で栽培されている主要大豆品種

エンレイ
えんれいのそら
里のほほえみ
シュウレイ
オオツル
あやこがね

「里のほほえみ」の普及拡大

図４.里のほほえみの草姿

- 難裂莢性
- 耐倒伏性
- 病虫害抵抗性

葉焼病抵抗性系統
「北陸A号」
育成中

多収化のための

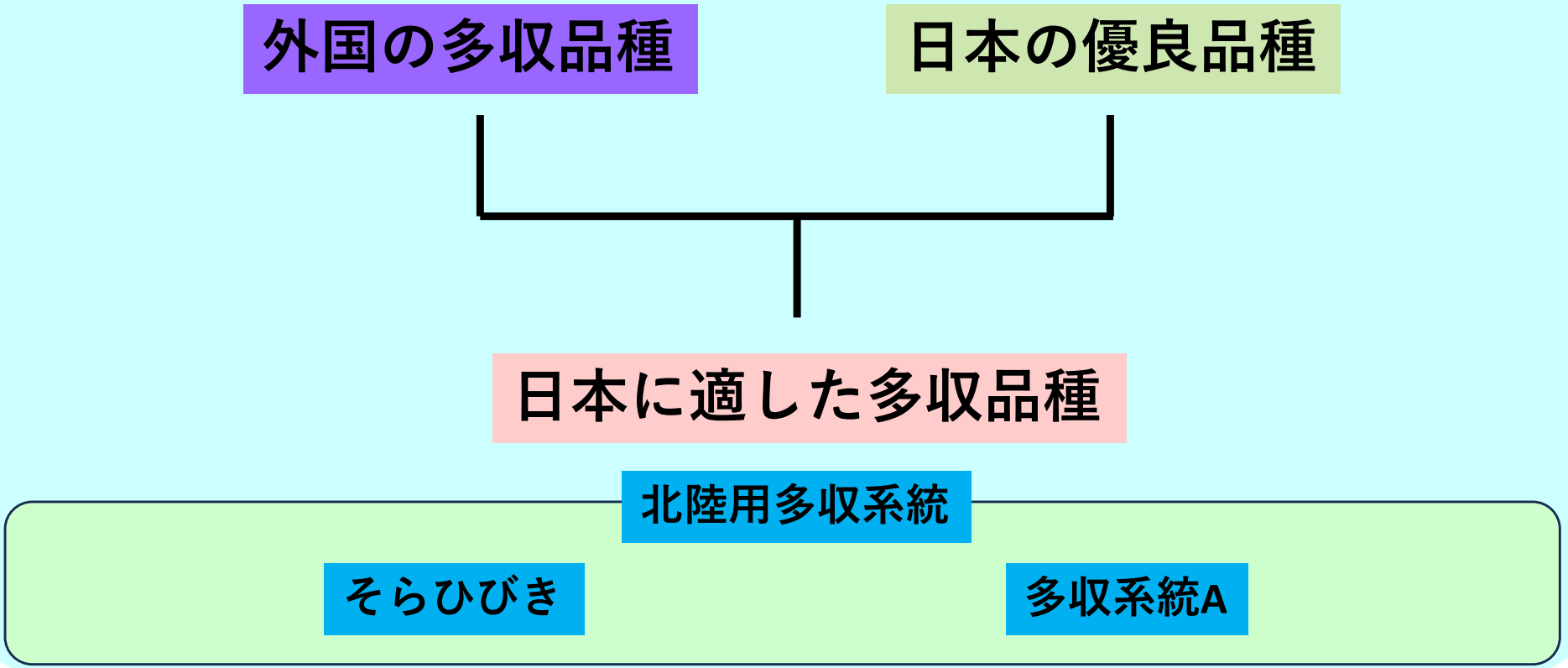
品種育成

米国品種の多収性を導入したい

	日本品種	米国品種
収量性	少	多
外観品質	良	劣
粒の大きさ	大	小
ﾀﾝﾊﾟｸ質含量	高	低
加工適性	良	中
価格	高	高

多収品種を育成中

外国品種の多収性を導入して多収化を図る。



多収系統の特徴

収量　標準対比130%も

品質　やや低い傾向

蛋白　やや低い傾向

粒大　小さい

最新の多収品種

農研機構 NARO

そらひびき
東北南部～北陸

2023年　石川県
342kg/10a (128%)

そらみずき
関東～近畿

2021年　三重県
357kg/10a (149%)

そらたかく
東海～九州

2023年　福岡県
406kg/10a (127%)

そらみのり
東海～九州

2022年　熊本県
330kg/10a (151%)

「そらひびき」について

東北農業研究センター

そらひびき

- **難裂莢性**
- **耐倒伏性**
- **多収性**
- **葉焼病抵抗性**
- **豆腐加工適性**

2022年から石川県白山市で栽培試験「里のほほえみ」より成熟早く、多収。

北陸向け多収品種

そらひびき
東北南部～北陸

表１．石川県白山市における現地実証試験成績

年度	品種名	生産地	成熟期（月/日）	倒伏	主茎長（cm）	子実重（kg/10a）	標準対比（%）	莢数（/m2）	百粒重（g）	蛋白質（%）
2022	そらひびき	村井地区	10/10	少	45	226	138	1269	23.9	42.2
	里のほほえみ		10/18	少	67	164	100	462	30.4	44.0
2023	そらひびき		10/9	微	49	342	128	1155	26.1	42.5
	里のほほえみ		10/23	少	61	268	100	644	38.1	45.1
2023	そらひびき	宮永地区	10/10		43	326	106	1589	25.8	44.8
	里のほほえみ		10/25		65	306	100	769	37.3	45.3

多収系統A（2023年生産力検定)

里のほほえみ	約400kg/10a
多収系統A	500kg/10a以上

他の多収系統(2023年予備試験)

里のほほえみ　約400kg/10a

３系統が500kg/10aを超える

11系統が450kg/10aを超える